令和元年度　北九州ESD協議会　総会議事要旨

令和元年6月25日(火)13：30～16：30

北九州まなびとESDステーション

■代表挨拶

　令和元年となって初めての総会となり、数年前から寺坂さん、三隅さんのお二方が牽引されてきたESD協議会を継ぐものとして、新たな気持ちで協議会を継承していく。

　2015年に協議会でアクションプランを作った。今年はその最終年であり、これまでの評価をもとに、今後の計画検討が一つの大きな仕事である。

　2015年に採択されたSDGsの「誰も取り残さない」という理念は協議会の理念と合致することが非常に多いと思う。教育という側面に焦点をあてながら、活動を継承し、さらに推進していきたい。昨年度は新たな取り組みをいくつか実施している。まだまだ道のりは果てしないが、一歩ずつ進めていきたい。

■第1号議案　平成30年度事業報告(案)について⇒承認

事務局長より全体事業説明。各プロジェクトはプロジェクトリーダーが説明。

質問1)「協働」の漢字を「協同」と変えている意味はあるのか？

→北九州市と協同して行ったという意味で使用している。

質問2)アワード選考委員を教えてほしい。

→（市民団体）

　　・（社）九州環境地域づくり代表理事　澤氏

・NPO法人くすの木自然館代表理事　浜本氏

（企業関係者）

・損保保険ジャパン日本興亜（株）CSR室シニアアドバイザー　関氏

（教育関係者）

・福岡教育大学教授　石丸氏

・佐賀女子短期大学准教授　櫃本氏

（行政関係者）

・環境省九州地方環境事務所環境対策課長　萩ノ脇氏

（国連大学）

・国連大学サステイナビリティ高等研究所プロジェクトディレクター　瀧口氏

の計7名で選考会を行った。

選考委員は運営委員会で審議したが、公表をするかまで審議していない。今後はその点も運営委員会に諮っていく。

質問3)調査研究・国際プロジェクトの「視察団の受入」に関わった方の名前を出してほしい。

→来年度から事業報告に記載する。

質問4) 商店街の動画において、SDGｓは大切だが私たちはESDをやっていきたいという思いが強いので自分たちの取組と離れている印象を受けた。

→SDGｓは１７の目標があり、その4番目にあたるのがESDである。全く関係ないということはない。大きな括りの中で北九州市と協力して行っていきたい。

質問5)昨年度、活動報告会を人材育成・発掘プロジェクトの方々に準備いただいたことは感謝しているが、これはESD協議会全体の事業としてあることが望ましいと考える。昨年はそこが曖昧であったため、今年からは、協議会の主催事業として皆様がされたことを発表し、共有できる場を作ってほしい。

→今年度は全体事業として挙げている。

質問6)ブランディングプロジェクトのHPやFacebookを使った広報は、学生の方が主に行っているが、プロジェクトメンバーは行っていないのか？

→現在、2名で行っているのでなかなか進んでいない。学生が情報発信をしてくれているのでそれを広げていきたい。

質問7)人材育成・発掘プロジェクトのおしゃべり工房は、コーディネーター養成にはならないと思う。今年はコーディネーター養成講座をやっていないようだが、今後コーディネーター養成をどのように考えているのか？

→次回のおしゃべり工房が終了した段階で、今後の在り方をどのようにするか話をする予定。

質問8）P21北九州ESDフォーラムの参加者にRCEインジェ関係者とあるが、調査研究・国際プロジェクトの視察受け入れにこのフォーラム参加の実績が挙がっていない。どのような方々が来られたのか？

→フォーラム開催直前に、北九州に来られるという相談を受けたので、事務局からフォーラムの情報提供をした。RCEインジェのキム部長と学生3人が参加した。

質問9)P23のSDGｓ社内リーダー育成講座は北九州市立大学のCOC+と連携し、共催として北九州・下関まなびとぴあが入っているが、これだと事業の目的が北九大の学生の就職支援の一環と受け取られ、協議会はそれに利用されている印象を受ける。そのような目的でCOC+とまなびとぴあと共催したのか？

→就職支援の一環として見られてしまうところは否めないが、目的は、企業の方へのESDである。持続可能な開発を考えた上での企業運営をしてもらいたいということでこの事業の企画している。

質問10)SDGs社内リーダー養成講座の最終回は、当初から3月16日と決まっていたが、この日は活動報告会と同じ日でRCE岡山の関係者の方が来られているが、近藤代表や眞鍋副代表の出席、来賓の方の挨拶はどのようにされたのか？

→日程調整が難しく、報告会には参加できずに大変申し訳なかった。

質問11)P25マイプロジェクトについて、EPO九州の記事に北九州まなびとESDステーション特任教授宮原さんのインタビュー記事が掲載されているが、ここには北九州ESD協議会のことが一切出てこない。これでは環境省の受託を受けているのがESD協議会ではなくまなびとESDステーションであるという印象を受ける。このようになった経緯を教えてほしい。

→その点は、配慮に欠けており申し訳なかった。

質問12)P27の環境教育における「ESD推進」のための実践拠点支援事業の対象となった九州近郊の高校生はどこの学校の方なのか、全国大会はいつ行われたのか、どこの高校の方に決まったのか、教えてほしい。

この点についても一切ESD協議会の名前が出てこないのでESD協議会としての事業として挙げていいのか疑問に思う。

→九州大会の対象は、中国・九州エリアの高校生。九州大会代表は、学校部門では宮崎県立飯野高等学校、広島県立御調高等学校の2校で、個人部門では宮崎県と沖縄県の高校生2名である。全国Summitは、平成31年3月22日～24日に東京で開催された。

質問13)未来パレット活動報告会の参加者の内訳を教えてほしい。

→参加人数は79名。属性については詳細がわからない。参加された中には市民センターの館長、ＥＳＤ協議会の会員、市内の活動者の方々が来られて活発な議論が行われた。

質問14）P28未来パレット報告会の調査研究・国際プロジェクトの発表者は、細井陽子ではなく服部祐充子が正しいので訂正してほしい。

→申し訳ない。訂正する。

質問15)私たちはESDという言葉を広めたいという思いで活動を行っている。P23の中にはESDという単語が一つも出てきてないのはどうしてか。ESDではなくてSDGｓを使ったのはなぜか。

→国が企業の経営にSDGｓを取り入れようと動いている。企業の関心がSDGｓに関して高まっているので、狙いとしてはSDGｓを行いながら、実際はESDであるということを理解してもらうために行っている。

質問16)活動報告会の人数はわかったが、属性も大事だと思うので明らかにした方が良い。

■第2号議案　平成30年度収支決算報告(案)について⇒承認

花崎監事より、監査報告。

質問17)活動報告会としての支出の項目がないがどこに記載されているか。

→おしゃべり工房と同時に開催したため、そこから支出している。

質問18)RCE岡山から関係者が来ているが、旅費等はどのようになっているのか。

→おしゃべり工房の事業として行ったのでそこから支出している。

質問19)ブランディングプロジェクトの中でホームページ￥10,800となっているが、内容を具体的に教えてほしい。

→アワードを行った際に会員からの票をいただくため、会員だけが見られるページを作成した。

質問20)アワードの報告書を印刷していたがその金額はどこに記載されているのか。

→北九州市と共催で行ったので、北九州市が負担している。

質問21)決算報告（案）の⑨⑫の部分で事業報告と記載事項が違うのでどちらが正しいのか。

→⑨ではまなびと講座に関する講師の謝金等を記載しており、⑫は「環境教育における「ESD推進」のための実践拠点支援事業」のことで、北九州市立大学に委託したものを記載している。

質問22)決算報告（案）の⑮プロジェクトリーダー活動支弁費は、当初の予定では4人各6万円で24万円であったが20万円となっているのはどうしてか。

→一人毎月5千円を支払っている。会議を開催しない月があったため、金額が減っている。

質問23)事業費の企画調整の金額が高いが、報告書の中では少ししか書かれていないので詳しく教えてほしい。

→コーディネーターは全ての事業を行っているので報告書に詳しく挙げるのは難しい。今年度からは、人件費として計上している。

質問24)日常的にコーディネーターが何を行っているか発信してほしい。また、会員の応援もお願いしたい。

→是非会員の皆様とお互いに応援し合う形で活動をしていきたい。

■第3号議案　令和元年度事業計画(案)⇒承認

事務局長より全体事業を説明。

質問25)スタディツアーにユースを派遣について、協議会にはユースというチームがないが、今後チームを作るのか。

→チームではないが、現在、ユースのメーリングリストを作成中なので出来次第報告する。

質問26)プロジェクト活動はどのように決めているのか。

→2か月に一回、運営委員会を開催し、各プロジェクトリーダーと環境学習課、事務局で協議している。

質問27)プロジェクトリーダーが納得して事業を進めているということか。

→各プロジェクトで協議したものを、運営委員会で随時報告・協議して進めている。

質問28)以前は、ユースプロジェクトがあったが、このステーションが出来てから北九州市立大学を中心に大学連携でESDを実施してきた。ステーションでの活動や大学連携自体がユースの活動という形になっていたが、この事業が終了し、これからユースの在り方を考える必要がある。国連大学や各RCEでもなかなかユースの活動を聞かない。この機会に今年度ユースを頑張っていただきたい。北九州の特徴として、市民センターや学校レベルでも活躍している人がおり、SDGsが出てきたことで企業からのユースも出てきている。この点で、従来の大学生だけではなく、当協議会は各ステークホールダーのユースがすごくしっかりしているということを武器に、新たなユースの組織を作っていただきたい。

→貴重なご意見ありがとうございます。今後、いろんな大学に行き、ESD協議会を広めていく。

質問29)①行政と教育委員会の活動を教えてほしい。

→行政では、環境局が中心となってESD推進をしているが、一番大きなものが北九州ESD協議会の活動支援。その他、TEEN開催、ESD表彰実施である。ほとんどの事業を北九州ESD協議会に協力してもらいながら進めている。また、教育委員会では、小中高でユネスコスクールを中心とした取り組みをしている。ユネスコスクールの認定を受けている学校だけでなく、それぞれの学校に合わせてアクティブラーニングを行っている。今後とも3者で協力し合いながらESD推進をしていきたい。

質問30)人材育成・発掘プロジェクトの国内RCEとの連携とは具体的にどのようなことか。

→昨年度のおしゃべり工房拡大版で、岡山RCEから岡山の公民館館長を紹介していただいた。このようなRCE間の協力をさらに深めたいと考えている、昨年の流れから、今年度もここにRCEとの連携を入れている。岡山に限らず、他のRCEとも連携して人材育成を盛り上げたい。

→それは全体事業ではないか。

→連携や交流の規模による。

質問31)全体事業にまなびと講座やまなびと事業が入っていないが止めるのか。止めるなら理由を教えてほしい。

→まなびと事業は、平成28年度までは国の事業として行ってきた。平成29・30年度はESD協議会が引き継いで行ったが、北九州市立大学でもこの事業が廃止になったので連携が難しくなり、事業の廃止という結果になった。

質問32)ESDアクションプランはどのような体制でやっていくのか。

→国・行政・RCE等の情報収集をしながら進めていきたい。

■第4号議案　令和元年度収支予算(案)⇒承認

事務局長より予算について説明。

質問33)環境学習課に質問。どういう目的で協議会の負担金2千万円を付けているのか。

→本市のESD推進は、北九州ESD協議会が中核を担っている。負担金は、ESD協議会の事業費、まなびとESDステーションの運営費、事務局の人件費等含めて、ESD推進のために支出している。

質問34)運営管理費の旅費が40万付いているが、使途を教えてほしい。

→様々な場所で会議等の開催が予定されている。また、スタディツアーで各RCEからユースを派遣する際に、協議会から別途１名程派遣したいと考えている。色々な方に会議等に出席していただきたいと考えている。

質問35)負担金の目的は活動支援という印象を受けた。事業費と運営管理費の比率をみると、活動費が400万円で、運営管理費が2千万円である。このような比率でいいのか。

→事業費については、少ない中で活発に行っていることを感謝申し上げる。現在のESDアクションプランで、協議会の運営体制の強化が強く示されており、事務局・コーディネーター・プロジェクトリーダーと体制が整えられた。家賃や光熱費が高いという意見もあるが、オーナーである中屋ビルさんに非常に協力していただき安くしてもらっている。北九州市の見解では事業費と運営管理費の予算は妥当であると考えている。

質問36)活動報告会の予算3万円は少ないのでは。

→金額ではなく、会員の皆様のご報告により、より良いものができると考えている。HPでも積極的に活動報告を掲載していきたい。

質問37)前年度の総会の時に、助成金は5年が上限ということであったが、期間の延長について申し入れた所、助成金の見直しがあったので今年も助成金を受け取れた。とても感謝している。

■第5号議案　北九州ESD協議会会則の改定及び役員の交代(案)について⇒承認

事務局長より説明。

【報告事項】

１　第21回ESDツキイチの集い開催について

２　人材育成・発掘プロジェクト　おしゃべり工房第6回開催について

３　2019年ユネスコ/日本ESD賞について

４　平成30年度制作のESD普及動画について

→昨年度、協議会会員にご協力いただいた動画が完成し、市のHPにアップしているので、ぜひご覧いただきたい。また、USB、DVD等を北九州ESD協議会に持参いただければ、データをお渡しすることも可能。皆様の活動の中でぜひ活用していただきたい。